

北薩海域におけるウルメイワシの発生時期

資源管理部 研究員 天野裕平

目的 北薩海域では、ウルメイワシの当歳魚は加工品の原材料として需要が高いものの、本種の資源生態には不明な点が多い。

北薩海域のウルメイワシの発生時期を検討し、本種の漁況予測に資することを目的とした。

材料・方法

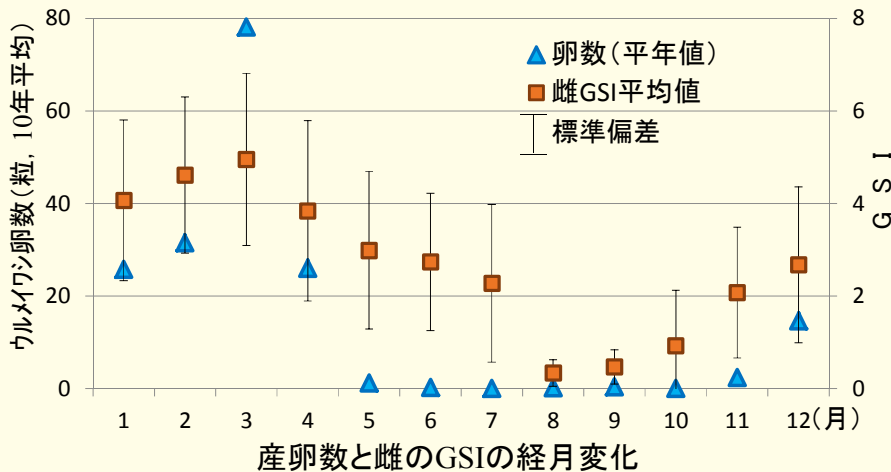
- ✓ ウルメイワシの月別の体長組成(直近10年分)から新規加入群を把握した。また、ウルメイワシ東シナ海系群の成長式(大下ら, 2011)から発生時期を推定した。

$$BL_m = 244.8[1 - \exp\{-0.10(m - 0.55)\}]$$

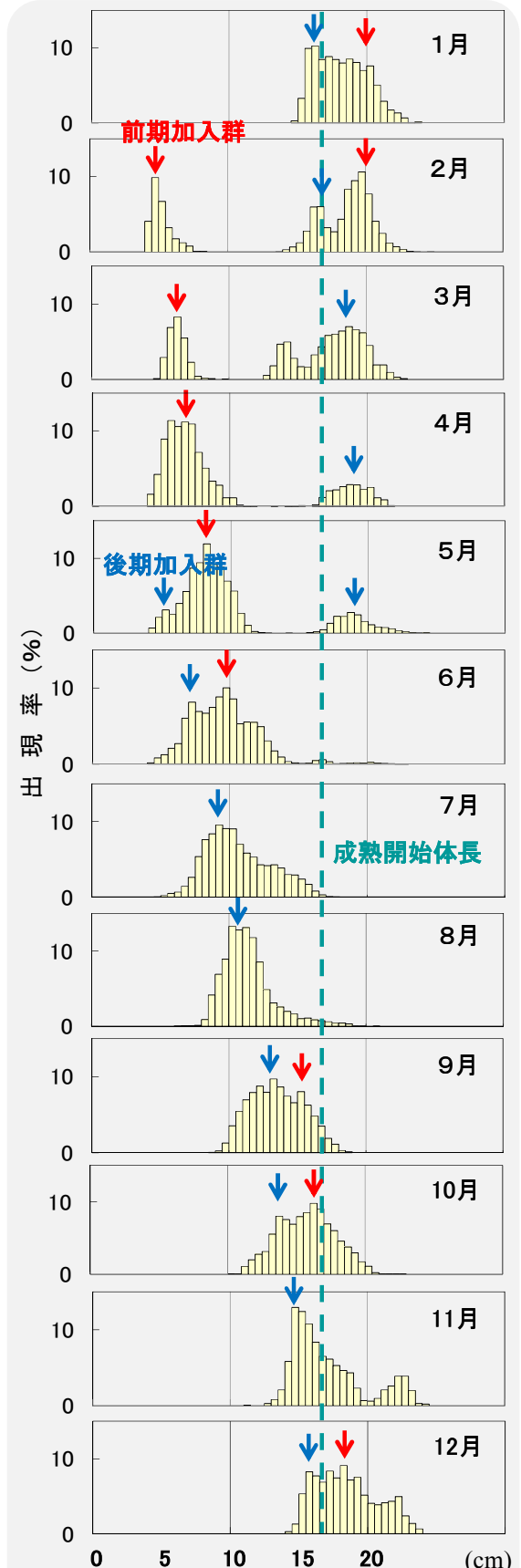
※ BL: 被鱗長(mm), m: 月齢

- ✓ 卵稚仔調査で得たウルメイワシの卵の出現数(直近10年分)を整理し、経月変化を把握した。
- ✓ 雌個体の生殖腺指数(GSI)を算出し、経月変化を把握した。また、大下ら(2011)を参考に、雌の50%成熟GSIである3.8と比較した。

結果および考察



- ✓ 2月と5月に新規加入群(前期加入群と後期加入群)が確認され、発生時期はそれぞれ11~12月頃、1~2月頃と推定された。
 - ✓ 発生後約1年で成熟が開始される17cm程度(大下ら, 2011)に達する。
 - ✓ 卵の出現数が増加する1~4月が産卵盛期と考えられ、雌のGSIも3.8を超えた。後期加入群はこの時期に発生した個体であることが示唆された。
- 前期加入群は11~12月、後期加入群は翌1月以降の親魚漁獲量、GSI、卵数等で漁獲予測ができる可能性。



北薩海域で漁獲されたウルメイワシの体長組成 (n=46,311)